

巨木・古木・希少木活動記録 6月24日（日）薄曇り

今日の調査地は島田町の三峰神社のスダジイ、永沼家のケヤキ、ムクの巨木です。実は永沼さまのお宅は文化時代から続いている旧家で、三峰神社は火災と盜難除けの守り神として、同家が個人所有する氏神さまです（歴史班の聞き取り調査より）。巨木はいつも出席者は20名くらいですが、今回は21名という今までの最高を更新し、巨木活動はますます快調に、今朝もメンバーは元気一杯で、7台の車に分乗して、森Pから現地に向いました。



牛舎前では、牛がウエルカム！



ケヤキー樹幹と樹高班が入り混じり活動



樹高班の主用メンバーは真剣！



その頃、歴史班は当主の永沼さんにお話を伺っていました。



永沼さんから庭のサイカチの説明を聞く。
 (サイカチはマメ科の落葉高木樹)



終了後、縁側でお茶をご馳走になりました。

写真班は天候に左右されるため、自主活動が多くなります。計測班は雨でない限り活動は可能です。しかし、歴史班は所有者がご在宅のときしか活動できない制約があります。

好評の出前講座・第2、第3弾

6月17日

牛久幼稚園の出前講座がアヤメ園で行われました。園児と保護者併せて50名以上にもなったでしょうか、2500平米もある広いアヤメ園もこの時ばかりは大人と園児で埋め尽くされ、石神園長もこの時ばかりは大汗をかいていました。こども達の目的は、水辺の生きものたちです。一番の人気者はザリガニ、二番目はニホンアマガエル、そしてメダカ等々。中でも珍しい生きものを見つけた園児は、「ヒル」を小さなバケツに入れて得意げでした。

牛久観光アヤメ園は、ハナショウブだけで終わる公園から脱却するため、出前講座や牛久・里の植物園を通してこども達の環境教育の体験フィールドにしようと
出前講座スタッフはじめ、アヤメ園受託事業メンバーがんばっております。



6月25日

三回目の出前講座が行われました。今回は、田宮町のふれあいサロン「ホットほっとサークル」のメンバー20名です。得月院駐車場に集合した参加者は、石神園長のオリエンテーションから始まり、マップを片手に城中一帯の歴史探訪をスタートしました。市内に住みながら案外知られていない身近な歴史と名所、それに自然を十二分満喫できるよう分かり易いガイドが求められます。今回は石神園長と坂がメンバーを半分ずつに分け案内しました。総歩行距離6.5kmというやや汗ばむ距離ですが、次々に現れる史跡に参加者は疲れも見せずに感激の声を上げていました。「近くだから散歩でたびたび訪れた場所だが、これほどの歴史があるとは思わなかつた」とか、「分かり易い解説に牛久に愛着が沸いてきた」などと云った感想をや、個人で歩くのも良いが、ガイドが付いてくれて細かな解説がとても分かり易く参考になったと参加者の皆さんから感想の声がありました。(坂 弘毅記)



今月の巨木「桂町のクヌギ」

毎月「巨木・古木・希少木リサーチ」の対象になった地域の銘木をお伝えします。

樹高 23m
幹周 2.8m
樹齢 推定200年
所在地 牛久市桂町483 吉田氏所有

日本各地の山地や丘陵地に生育する落葉高木です。古くから日本人の生活に溶け込んでいた木であり、クヌギは「国木」(くにき)の意だともいわれています。開花は5月ごろですが、実(どんぐり)は翌年の10月ごろ大きく褐色に熟れます。

吉田家のこのクヌギは、木の葉の状態で吉凶が分かるという祖先からの言い伝えがあり、下妻市の大宝八幡宮からの分霊を祭り、御神木として大切に保護しています。

(「市民の木案内板より」)



写真撮影：戸塚昌宏

牛久城址清掃作業

6月25日午後から牛久城址の本丸下空堀の清掃作業が牛久市商店元気づくり委員会と牛久市商工会青年部主催で行われました。今回は二回目になりますが、牛久市のシンボル的な牛久城址を再生整備し、多くの人たちに来城してもらおうという取り組みです。うしく里山の会も正式に要請を受け、雑木林応援隊の有志とアヤメ受託事業の有志が清掃作業に道具持ちで駆けつけました。チェーンソー、刈り払い機、鎌、ノコギリなど持ち込み、当時の遺構を残す空堀に降り、孟宗竹等の倒木等を整理しました。広い城址ですから全ての清掃が終わるまでにはまだかなりの時間が必要でしょうが、地道に活動していこうという事です。参加された皆さん本当にお疲れ様でした。(坂 弘毅記)



ホタルの生息環境調査

に参加して

プロジェクトからのおたより

里山自然観察隊プロジェクト



里山自然観察隊プロジェクトでは今年度の活動事業として「ホタルの生息環境調査」を行っています。

6月の初めに調査対象場所として昨年までの調査結果等を参考に、市内6ヶ所（奥原・上太田・遠山・向台・城中東及び城中西）を現地調査を行う場所に定め、地図上でそれぞれの調査ポイントを特定しました。

6月中旬から7月上旬に現地の事前調査を予定し、現在までに、奥原（6月13日）、上太田（同20日）、遠山（同27日）の3ヶ所の調査を実施しました。

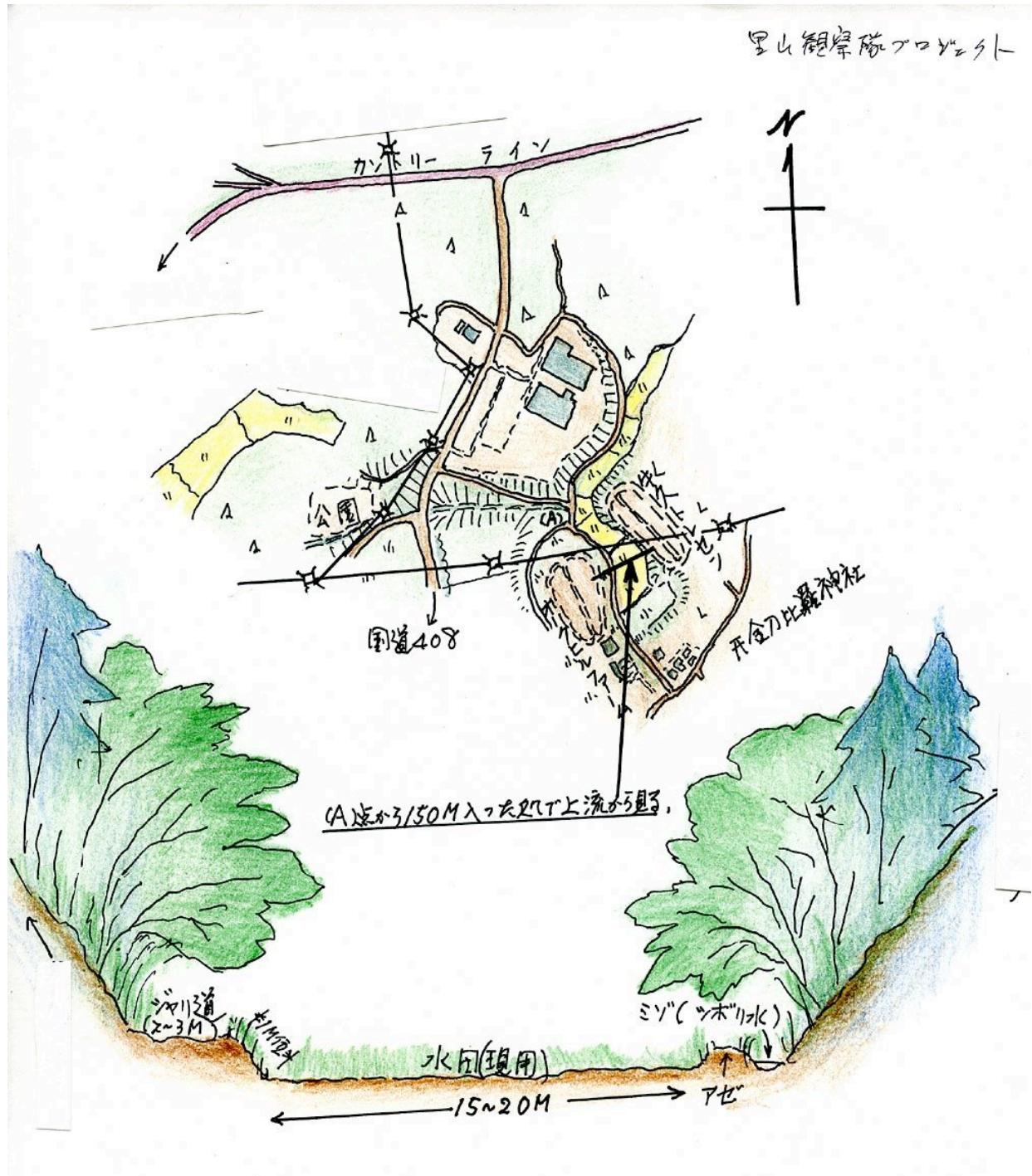
7月中旬から8月中旬にかけ夜間の現地調査としてホタルの発生・飛翔状況、種類などを6回調査する予定です。調査は毎回5人前後の人員で行っています。調査内容はホタル（卵→幼虫→蛹→成虫）が住める環境かどうかということで、各調査ポイントの田や小川の土手・底・水量・水質・流れの状況・幼虫のエサになる巻貝の有無、周囲の植生、ホタルの生息に影響を与える人工物の存在等を調べています。

牛久に住むようになって私は20数年になりますが、改めて周囲を見回すと、周囲の環境が大きく変わっていることを実感します。街や道路はだいぶ整備・拡充されましたが、一方山林や田畠は急速に少なくなっています。日本全土の内、山林の占める面積は約67%といわれていますが、私達の住む県南の山林面積は約20%と低く、急速に都市化が進んでいることを示しています。以前は牛久市内でも水田耕作という自然と人間生活の営みの関係の中で、山林や谷津田が手入れされ、ホタル・トンボ・ドジョウ・タニシ・メダカ・フナ・タナゴなど普通に見られたと思うのですが、今ではこれらの生き物は限られた所でしか見ることが出来なくなっています。そのような状況の中で、このままでいいのか、どうしたらいいのかと漠然と感じていたのですが、里山観察会の際のお誘いを機に、先ずは現状を知ることが大切と、ホタルについて特に何の知識も経験もない私がホタルの生息環境調査に参加することになりました。

ホタルは完全変態（卵→幼虫→蛹→成虫）をする昆虫で生活環境が水辺→水中→土中→空中と各段階で異なり、環境の変化の影響を受けやすく、自然の度合いを示す指標として関心が持たれます。今後も調査を続け、ホタルが生息できるような環境が維持できるような対応（人の生活と自然のバランス）を考える参考になればと思います。

(記 平塚)

尚、7月下旬から8月中旬にかけて、夜間のホタル調査を予定していますが、ぜひ
参加したいとのご希望のある方は029-873-6562高野までお電話下さい。



里山観察隊プロジェクトによる現地調査図

じゃがいもの収穫と収穫祭

野外活動は雨さえ降らなければ半分は成功です。予報の雨マーク、台風の接近にはドキドキさせられました。7月8日（土）曇りから陽のさす天候になりました。

未就学児とその親の募集をしたら、2才の子とその親の10家族26人が参加してくれました。種まきから手伝ってくれた3家族と、里山の会員10人の合計42人でした。（赤ちゃんも2人、ベビーカーに乗って参加）飯田さんと大谷さんが掘り返し、皆にひろってもらいました。小さな手でパパやママといっしょにひろい、ニコッと笑う顔がとても可愛い。

暑くなってきたので一休み。加藤さんの作ってくれた梅ジュース、足名さんのシソジュースをごちそうになって、のどをうるおします。それからは思いのほか早く終わってしまいました。



収穫祭の準備も進めましたが、撮影隊いたため火を燃すことができず、ちょっとあわてました。皆が手を洗ったりしていたもでき上がりずにいましたが、じゃがいもの塩ゆでができ、みそ汁ができ、ホイル焼き（バターをつける）、甘味噌がらめ、そして目玉のジャガイモピザがたっぷりでき上りました。おにぎりをもってきて下さいと連絡しましたが、種々のじゃがいも料理でお腹いっぱい。みんなタップリたべました。

[感想]

- ・家ではなかなか食べない子供も、体験することで、喜んで食べていました。
- ・自然の中で自然にできたものを食べさせていただき、ありがとうございました。
- ・なかなか体験できることでした。
- ・畑で土や草にふれられ、とってもとても良い体験になりました。
- ・青空の下、普段体験できないことができ、子供も楽しかったと言っていました。
- ・とれたてのじゃがいも、おいしかったです。
- ・土から出てきたじゃがいも。孫ははじめてのおいも掘り。一生懸命皆で楽しみました。
- ・「ゆずちゃん、また会おうね」と声をかけてる小さな男の子がいました。ここで友達になったそうです。



「また参加したいです」という声も多かったです。
<10月里いもとヤーコンの収穫祭を予定しています。>



そばプロジェクト

今年もそば播きの季節がやってきました。天候不順がそばにどのように影響するでしょうか。昨年まで幼稚園がさつまいもを作っていた100坪(?)位も播くことになりました。が、人手の不足が予想されますので、参加の協力よろしくお願ひします。発芽から花の咲く里山の風景を楽しんでください。

日程

そば種まき	8月20日 (土)	雨天時は8月26日 (土)
そば刈り	10月21日 (土)	雨天時は10月28日 (土)
そばの実落とし	10月28日 (土)	雨天時は11月4日 (土)
唐箕かけ	11月11日 (土)	
そば打ち	12月2日 (土)	

場所 駐車場奥の畑

費用 そば打ち 600円位

申し込み 横山 029-874-1430

運営委員会議事録 2006/7/16 ※詳しい議事録はネイチャーセンターにて閲覧可能です

～運営会議議事録より抜粋～

〈議席数18名のうち11名出席。1/2以上の出席。本会は成立〉

1. 細則変更のお知らせ

会の細則が変更になりました。最も大きく変更された点は、入会の条件としていた「活動レクチャー」の受講（毎月第一土曜日開催）を配布された資料「守り育てる森」を読んでいただくことに手続きを簡略化したことです。

＜会員規定＞

1. 会員

(1) 会員登録

旧) →入会後3ヶ月以内に「活動レクチャー」を受講することを必須とする。

新) →削除

→追加 入会後は「守り育てる森」の資料を熟読することを必須とする。

2. 一般(会員登録をされていない方)の参加費(保険代)について

本年度から、指定管理者としてNPO活動総合保険(20,000円/年・観察の森)に加入し、一般参加者の保険をカバーできるようになりました。一般参加者の参加費(200円/回)は資料代として扱うことになりました。

保険内容の詳細については、観察の森ネイチャーセンターにあります「ボランティア活動保険」の資料をご覧ください。

8月の里山カレンダー

※活動日は都合により変更になる場合がありますので、ホームページ等でご確認ください。

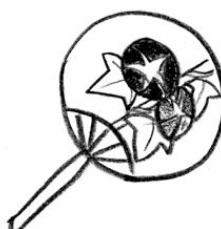
日	月	火	水	木	金	土
		1 ○里山観察隊 20:30	2 ○雑木林畠隊 9:30畠	3 ○アヤメ園（受） 9:00アヤメ園P	4 ○雑木林畠隊 9:30観察舍畠 ○里山観察隊 20:30	5
6 ○巨木古木リサチ 8:30森P	7 (休園日) ○アヤメ園（受） 9:00アヤメ園P	8	9 ○雑木林畠隊 9:30畠	10 ○アヤメ園（受） 9:00アヤメ園P	11 ○里山観察隊 20:30 (会報等原稿〆切)	12
13 ○里山聞き取り 9:30NC ○雑木林応援隊 9:00炭小屋	14 (休園日) ○アヤメ園（受） 9:00アヤメ園P	15 ○里山観察隊 20:30	16	17 ○アヤメ園（受） 9:00アヤメ園P	18 ○雑木林畠隊 9:30観察舍畠	19
20 ○運営委員会9:00NC ○理事会11:00NC ○広報11:00NC ○そばP	21 (休園日) ○アヤメ園（受） 9:00アヤメ園P	22	23 ○雑木林畠隊 9:30畠	24 ○アヤメ園（受） 9:00アヤメ園P	25 ○雑木林畠隊 9:30観察舍畠	26 ○巨木古木リサチ 8:30森P
27 ○雑木林応援隊 9:00炭小屋	28 (休園日) ○アヤメ園（受） 9:00アヤメ園P	29	30 ○雑木林畠隊 9:30畠	31 ○アヤメ園（受） 9:00アヤメ園P		

森：観察の森、 NC：観察の森ネイチャーセンター、 (受)：受託事業、 P：駐車場、 (休園日)：観察の森休園日

編集後記

夏祭りの季節ですね！

ワッショイ！ワッショイ！みなさんはお神輿を担いだことはありますか？神人和楽（しんじんわらく）ということで、土地の神さまも近所の人々も年に一度は集まって楽しく遊ぼう～♪というのが夏祭りです。秋の実りのほうもよろしくお願ひします！というわけですね。



茨城町に住む私は、牛久市の祭りはまだ見たことがないのですが、今年は、ぜひ見てみたいと思っています。

(記 安村)

会報原稿募集中！

会報「さとやま」の原稿を募集しています。各プロジェクトや特別事業からの報告、「さとやま」にふさわしい情報などをお送りください。

原稿は400字詰め原稿用紙2枚(A5)、または4枚(A4)の分量をお願いします。テキスト(手書き可)をメール、または郵送でお送りください。写真がある場合はプリントまたは画像ファイルもお送りください。(写真を含む記事はそのぶん文字数を減らしてください。) 記事送り先は下記です！

牛久自然観察の森 久保庭敦男

メール skyranger-mori@u-satoyama.jp

300-1212

牛久市結束町489-1 牛久自然観察の森

会報さとやま 2006年8月号(発行・NPO法人うしく里山の会)

事務局 300-1236 茨城県牛久市田宮町808-20 電話029-801-2500 (代表 坂弘毅)